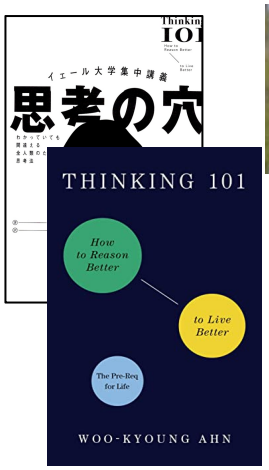
「思考の穴」：要約（3/3）

"THINKING 101 " How to Reason Better, to Live Better, The Pre-Req to live.

原題:「101の思考」・・人生に必須のもっといい理由付けからもっといい生き方へ

アン・ウーキョン 著 花塚恵 訳 ダイヤモンド社 2023年9月初版、2023年第3刷
B・5：382ページ



わかっていても避けられない
第1章 「流暢性」の魔力
第2章 「確証バイアス」で思い込む

第3章 「原因」はこれだ！
第4章 危険な「エピソード」
第5章 「損したくない！」間違える

第6章 脳が勝手に「解釈」する
第7章 「知識」は呪う
第8章 わかっているのに「我慢」できない

Woo-kyoung Ahn
アン・ウーキョン
https://psychology.yale.edu/people/woo-kyoung-ahn

第6章 脳が勝手に「解釈」する

なぜか「そのまま」受け取れない

T.K.の個人的意見・感想、参考資料

1999年、私は妊娠して娘を迎える準備をしていた。いろんな物を揃えていた。
その中にﾅｲﾄﾗｲﾄがあった。科学雑誌「ﾈｲﾁｬｰNature」に載っていた研究を読んだせいで、
ﾅｲﾄﾗｲﾄを買うのをやめた。研究によれば、照明がついた室内で眠った赤ん坊は、暗闇で
眠った赤ん坊に比べて近視になる確率が5倍高いとされていた。ところが1年後別の
論文が「ﾈｲﾁｬｰ」に掲載された。その研究によれば、明るい部屋で眠った赤ん坊とその子
が近視になることには相関性はあるが、因果性はなく、因果関係は親の持つ近視の遺伝子
によるものだとされていた。

「最初に思い込んだことを」信じ続けようとする

2001年、私は息子を妊娠した。重度の近視である私は息子にﾅｲﾄﾗｲﾄを買うだろうか。
私は決して買わなかった。認知心理学の研究者として、私は自分の研究結果に抗（あらが）う
行動を取ったことに関心をもった。その現象に「因果関係の刷り込み」という名前までつけた。

A（ﾅｲﾄﾗｲﾄをつける） B（近視になる） C（近視は遺伝）

最初にAであればBになることを知る。
そのあとからAとBは関係なく、BはCによるものだと知る。
しかし、最初の知識が刷り込まれて、あとあと引きずられる。

これは確証ﾊﾞｲｱｽの一種で、人には自分が信じるものを信じ続けようとする傾向がある。
人は自分が正しいと信じていることを否定する情報には目をむけない。

人生ずっと信号の色を間違えていた

息子が4歳のとき、一緒に車に乗せていた時、息子が信号機のｵﾚﾝｼﾞ色をｲｴﾛｰと
呼ぶのか聞いてきた。確かにｵﾚﾝｼﾞ色なのにｲｴﾛｰと思いこんでいた。言われなかったら
一生そう思い続けただろう。（行政と英国では正確に琥珀色と表現される）

わかっているのに、ゆがめて解釈してしまう

信号機の色の呼び方が間違っていても交通ﾙｰﾙさえ守っていれば危険はない。しかし、
「最初の考えを見直さなければ悪影響が出るとなれば、人は新たな情報を前にしたとき
解釈を修正するはずだと」思う。残念ながら反証を突きつけられても、自分や周囲に
甚大な被害が及ぶ可能性があっても、ﾊﾞｲｱｽのかかった解釈に固執する例は多い。

オカルトから抜けられない理由
頑固は意志の強さか
思考の歪みか、硬直か。

「自分の問題をいつも他人のせいにする人」は傷付きやすいエゴは守れるが、学習し成長する
機会は奪われ、硬い絆や健全な人間関係は生まれない。「何でも悪いことは自分のせいに
する」はｲﾝﾎﾟｽﾀｰ症候群（詐欺師症候群。常に自分を過小評価してしまう心理傾向。）に
苛（さいな）まれている。自分の力を信じられず、その思いに反する証拠がいくつ出てきても、
すでに自分に対して持っているﾈｶﾞﾃｨﾌﾞな意見、態度は絶対に変わらないだろう。

同じ経歴」でも差がつくのはなぜか？

不当な固定観念に基づいて、他者に対して誤った認識を持ち続けていると、周囲に被害を
及ぼすことがある。これについて実証した研究は数えきれないほどあり、その中でも私が
気に入っているのは社会問題として物議を醸している「賃金におけるｼﾞｪﾝﾀﾞｰｷﾞｬｯﾌﾟ」を
調べた研究だ。ｱﾒﾘｶのﾏﾝﾓｽ大学での実験で、学生のﾗﾎﾞﾏﾈｼﾞｬｰ（大学職員）に応募した
一人の応募者に対する書類評価だった。審査員を半数ずつに分けて、審査の書類を渡した。
半数の書類は男性の名前のもの、あとの半数には女性の名前のものだった。

審査をするのは全員理系の教授たちで、先入観を持たずに審査をするかと思われたが、結果は、男性の名前の書類の人物を高く評価した。ふさわしい年俸の額についても女性よりも男性の方に10%高い数値を付けていた。がっかりしたのは審査員の中には女性もいて、同じような傾向の評価をしていたことだった。

ﾎﾟｼﾞﾃｨﾌﾞに誤解される人、ﾈｶﾞﾃｨﾌﾞに誤解される人

性別に限らず、差別という言葉で連想されるものに偏見が生じることを実証した研究もたくさんある。近年、非人道的な問題として注目を集めている、警官の暴力と人種差別について調べた実験を紹介する。

この実験の参加者はほとんど白人の男性と女性で、ﾃﾚﾋﾞｹﾞｰﾑをしてもらった。ｹﾞｰﾑの中に出てくる人物は銀色か黒の拳銃を持っているか、または銀色のアルミ缶か黒いｽﾏﾎを持って表れる。持っているもを見間違えることは無いようにした。ｹﾞｰﾑの参加者は出てくる人物が拳銃を持っていれば「撃つ」のﾎﾞﾀﾝを押すように指示されていた。

寒気のする結果が出たと思っている人は多いのでないか。被験者が白人であっても、黒人であっても、画面に現れた人物が黒人であると、「撃つ」のボタンを押す確率が高かった。被験者が黒人でも同じような結果になった。

「知的な人が陰謀論にはまる理由

知的な人は誤った判断をしなくて、知的で無い人が間違った判断をするのだろうか。実は、むしろ賢い人の方がﾊﾞｲｱｽのかかった解釈にとらわれやすいのだ。知的な人は自分の意見に矛盾する事実をごまかす術をたくさん心得ているからだ。

1979年に発表され、後に確証ﾊﾞｲｱｽ、政治的二極化を招くﾊﾞｲｱｽに関する論文に頻繁に引用されるようになった研究がある。この研究は大学生に死刑に関する意見の変容があるかを見るものだった。非試験者の学生は死刑賛成論者と死刑反対論者の二つのｸﾞﾙｰﾌﾟで構成されていた。非試験者の学生は死刑に関する10研究結果を読むようにｸﾞﾙｰﾌﾟで指示された。10の研究の5つは死刑制度のある州での犯罪が減少したとするもの。残りの5つの研究は死刑制度のある別の州では犯罪が増えたというもの。

死刑制度がある州の犯罪が減ったという5つの研究を読んだ学生は、死刑に賛成派もも反対派どちらも死刑制度に賛成する方が増えた。一方、死刑制度がある州で犯罪が減ったという研究を読んだ学生もは、死刑賛成派も反対派も死刑制度に反対の方に増えた。結果としては、自分が持っていた意見と相容れなくても、新たに得た情報の影響を受けたということだ。

「詳しい情報」で、むしろバイアスが強まった

死刑制度に関する実験のあとで、実験の被験者には10の研究のさらに詳しい研究内容を読むことになった。研究の詳細が明らかになると、賢明な被験者たちは、自分のもともとの意見と矛盾する結果を否定するようになったのだ。次のような意見だった。

「その研究は、死刑制度が復活する1年前と1年後しか調べられていない。信憑性のある研究にするには、少なくとも死刑が復活する10年前からﾃﾞｰﾀを集め、復活後もそのくらい長くﾃﾞｰﾀを集めるべきだった。」とか「対象とする州の選び方にさまざまな問題があるほか、実験全体に可変要素が多すぎて、自分の意見が変わるには至らなかった。」

イソップ物語
取れないブドウとｷｯﾈ

要するに、自分のもともとの信条に相反する証拠は、対立を深める結果を招いていた。詳しい情報を得たとたん、高度なｽｷﾙを使って自分の立場と矛盾する研究のアラ探しにとりかかり、その結果、信条にそぐわない研究結果が自らの思いを強める役割をはたすことになった。

我田引水
三つ子の魂百まで
我を通す
横紙破り

「推論能力」が高ければ、間違わないか？

死刑制度についての判断の仕方研究においては、被験者の推論能力を確認せずに行っていた。では推論能力が高ければ、ﾊﾞｲｱｽをかけずに判断できるのかを調べた別の実験がある。推論能力があるかの確認は、いくつかの問題で数学的な推論能力を確認した。問題は次のようなもの。

実際には正5面体は存在しない。

問題1：5面ｻｲｺﾛを50回振って、奇数が出る回数は平均すると何回になるか。
問題2：森のキノコのうち20%は赤色、50%は茶色、30%は白色。赤色のｷﾉｺのうち20%は毒ｷﾉｺである。赤色でないｷﾉｺの5%には毒がある。森の毒ｷﾉｺが赤色である確率は何%か。

問題1の答え：30回
問題2の答え：50%

この問題を解いたあと、新作のｽｷﾝｸﾘｰﾑの評価を指示した。

	発疹が改善した	発疹が悪化した
新作のｽｷﾝｸﾘｰﾑを使った人数（298人）	223	75
新作のｽｷﾝｸﾘｰﾑを使わなかった人数（128人）	107	21

使わない方が改善の%が高い

被験者この新作のｽｷﾝｸﾘｰﾑは発疹に効果がないと正しく評価した。

賢いからこそ、進んでﾊﾞｲｱｽにとらわれる

同じような実験を銃の規制についての判断で行った。

共和党の意見に一致するデータ

	犯罪が減少した	犯罪が増加した		
公共の場で拳銃を隠して携帯することを禁じた都市の数(298)	223	75	74.8%	25.2%
公共の場で拳銃を隠して携帯することを禁じていない都市の数(129)	107	21	82.9%	17.1%

民主党の意見に一致するデータ

	犯罪が減少した	犯罪が増加した		
公共の場で拳銃を隠して携帯することを禁じた都市の数(298)	75	223	25.2%	74.8%
公共の場で拳銃を隠して携帯することを禁じていない都市の数(129)	21	107	17.1%	82.9%

民主党、共和党どちらの支持者でも、数学的推論能力が弱い人たちは正しいく評価出来なかった。
彼らの正解率は勘で選んで正解する確率と同じだった。
しかし、数学的推論能力が高いどちらの支持者も、自分の支持する意見の正解率が高かった。

事実を「自分の考え」に一致させようとする

事実やﾃﾞｰﾀを自分の考えに一致させようと歪めて解釈する傾向は、個人や社会への脅威になりえる。
そのような人たちは「面目」を保ち、家族や派閥、政党のために、信条や思いを守りたいという
欲求から生まれることもある。思い込みからそうなることもある。自分のなかに存在する思い込みに
よって、目にしたものや体験したことに色がついてしまうことがある。認知とはそういうものなのだ。

つねに脳が勝手に解釈している

ﾊﾞｲｱｽの背後に潜む認知のﾒｶﾆｽﾞﾑは、私たちがあらゆる瞬間に日々使っている
ﾒｶﾆｽﾞﾑと何も変わらない。私たち人間は膨大な量の知識を持ち、その知識は
絶えず、外部からの刺激を処理する過程で無意識かつ自動的に使用される。
この処理のことを、認知科学の分野では「ﾄｯﾌﾟﾀﾞｳﾝ処理」と呼ぶ。

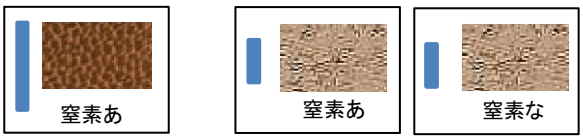
ｱﾒﾘｶで育った人なら、「忠誠の誓い」の文言を繰り返し耳にしたことがあるはずだ。
「私はｱﾒﾘｶ合衆国の国旗、ならびにその国旗が象徴する、万人に対する自由と
正義を携え、神の下で分かたれることのない一つの国家に忠誠を誓います。」
これを読むとき、「分かたれることのない」を意味する indivisible を invisible と
「象徴する」を意味する for which stands をfor witches stand と言い間違える
こどもは多い。音だけを聞くと、実際そう聞こえる。文言の意味を考えて間違いに
気づく。ﾎﾞｲｽﾒｰﾙの書き起こし機能も同じような間違いをする。不明瞭な言葉や
意味はﾄｯﾌﾟﾀﾞｳﾝ処理を通じて無意識に引き出される知識や膨大な関連情報に
よって明瞭になる。

I pledge allegiance to the Flag of the United States of America, and to the Republic for which it stands, one Nation under God, indivisible, with liberty and justice for all.
witch=魔女、 invisible=見えない
日本語には同音異議の言葉が多いので、常に意識している必要がある。
(空耳)、ダジャレ、AIの能力は？

同じものが人によって長く見えたり短く見えたりする理由

何か特定のことを信じたいという動機が一切ないときも、人はそのとき何を
信じているかによって、同じものでも見方が正反対になることはあるか？
私はそれを確認する実験をおこなった。実験は土壌の中の窒素含有と、窒素を
発生させる細菌の関係を60枚のｽﾗｲﾄﾞからどのように認識するかというもの。
ｽﾗｲﾄﾞは長短2種類の細菌と土壌中に窒素があるものとないものの2種。

植物も動物も擬態をすることで捕食したり、捕食から逃れることをする。
人間は学習や経験を積むことで、概念を作りだし、それが先入観となり、思い込み偏見となる。それを政治も経済も利用している。



ｽﾗｲﾄﾞの左にあるのは細菌、右は土壌の多様写真。

ｽﾗｲﾄﾞA(20枚)　ｽﾗｲﾄﾞB(20枚)　ｽﾗｲﾄﾞC(20枚)

最初にｽﾗｲﾄﾞAを見せて、そのあと、ｽﾗｲﾄﾞB・Cを混合させて見せて窒素作る
長い細菌のｽﾗｲﾄﾞが何枚あったかを尋ねる。被験者の平均回答数は28枚だった。
長い細菌が窒素を作るという仮説が被験者に生まれたせいで、土壌に窒素が
あれば、細菌は長いと解釈したのだ。別のｸﾞﾙｰﾌﾟに被験者に対しては、最初に
組み合わせと枚数を逆にして、短い細菌で窒素なしのｽﾗｲﾄﾞを見せ、逆の
質問をした。結果は同じ傾向をしめした。

脳が解釈しなければ「人生のすべて」がカオスになる

窒素細菌のｽﾗｲｲﾄﾞ実験では、両方のｸﾞﾙｰﾌﾟは実験の後半で、全く同じ中間の長さの
細菌のｽﾗｲﾄﾞをみたにもかかわらず、あるｸﾞﾙｰﾌﾟは「長い」と認識し、別のｸﾞﾙｰﾌﾟは「短い」
と認識した。どちらのｸﾞﾙｰﾌﾟも長い細菌が窒素を作ると信じ、思い込んでいたからだ。

あなたは絶対にﾊﾞｲｱｽを止められない

まずは、解釈にはﾊﾞｲｱｽがかかることは絶対に止められないと理解しよう。歪んだ
解釈の危険性に立ち向かうために何ができるかを考えるには、この認識を持つ
ことが最初の一歩にふさわしい。自分の思考にﾊﾞｲｱｽは生じていないと思い込んだり、
ﾊﾞｲｱｽに苦しめられるには自分と違って頭の回転が遅い人だけだと思い込んで
いたりすると、思考のﾊﾞｲｱｽを克服するのはますます困難になる。

臨床心理学には「認知行動療法」と呼ばれる治療がある。これは、深く染みついたﾈｶﾞﾃｨﾌﾞな思考のﾊﾞｲｱｽを正すことに特化した心理療法だ。それは実際に学習しなければ身につかない。認知行動療法は高い効果があると実証されているが、一回の治療では効果は生まれない。ｽﾎﾟｰﾂｼﾞﾑでｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰの協力で体調を整えるようなものだ。

「考えが正反対」の相手を変えられるか？

ﾊﾞｲｱｽのかかった解釈で誰かに迷惑をかけられたり、嫌な思いをさせられたりしたときにはどうすればいいのか。ﾊﾞｲｱｽは人の認知にはつきものだと理解していれば、自分とものの見方が違う人に対して寛容になれるはずだ。

ﾊﾞｲｱｽのかかった解釈をしている人に対し、毎回身構える必要はない。場合によっては、相手のものの見方を変えようとするよりも、視点の違いによって生じた問題の解決に力を注いだほうが、簡単かつ効果的なこともある。

たとえば、庭の芝を完璧に手入れしておきたい人と、庭の手入れは危険な薬品を使ったり、水を無駄に使ったりするのが嫌いで在来種の花を植えている人がいると、この二人は正反対な好みなので、庭についての意見は合うはずがないので、そんな議論はしないで、生垣にして、互いの意識をそこで仕切るのも方法。

さまざまな偏見には、歴史、文化、経済、政治など、社会や組織的な要因から生まれたものが多い。それでも、ｼｽﾃﾑﾚﾍﾞﾙの問題は、別のｼｽﾃﾑによってしか対抗できないこともある。その場合は、明確かつ公平に、公共の利益をまもることを目的としたｼｽﾃﾑを意識的に作るしかない。

第7章 「知識」は呪う・・・・「自分が知っていること」は皆の常識？

私たち夫婦はふたりとも心理学の教授だ。人から心理学者は他人の心を読めるかということをよく尋ねられる。私も、夫も読めないと答えている。自分たちの研究から何を教わったかと言えば、それは他人の胸の内を読むどころか、「自分の胸の内の理解についても過信している人がほとんど」だということだ。

あなたの「皮肉」は実は全然通じていない

私たちは絶えず他人とのｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを取っている。新たなｱｲﾃﾞｨｱや感情を口頭や文章で誰かに伝え、誰かが自分に聞かせたいことや読ませたいことを聞いたり読んだりしている。それにもかかわらず、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝというものがいかに難しいかを理解できていない。

次のような文字によるｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝで「皮肉」が伝わるかどうかの実験をした。互いに親しい友人同士の間で、「皮肉を込めた文章」と「真面目な文章」を読んで、「皮肉を込めた文章」を当てるものだった。文章の作り手も読み手もわかると思っていたが、正解率を集計すると50%程度だった。

「声の調子」を調整しても、伝わらない

前の実験は書き言葉・文書では皮肉は伝わりにくいということだった。話し言葉として英語の音声ではｷｰﾜｰﾄﾞを長く引き延ばして発音したり、声を高めにしたりすることで、皮肉は伝わりやすくなる。しかし、いつでもそれが可能とは限らない。
「これどう？」、「ほっといて」などあいまいな表現がされると、真意が伝わりにくくなる。

「夫婦」でも「赤の他人」でも理解度は同じ

実験では、あいまいな表現をされると、夫婦の関係であっても、初対面の人であっても真意が伝わりにくいことは同じであった。

「自分の持っている情報」で考えてしまう

あいまいな表現で、真意が伝わりにくいのは、人は何かを知覚すると、必ず自分が持っている知識に照らし合わせてそれを解釈する。自分以外の人も皆、たとえ自分が持っている知識を持っていない人であっても、自分と同じようなものの見方をすると思い込みかねないからだ。これを「自己中心性ﾊﾞｲｱｽ」と呼ぶ。

相手の真意を汲み取れない人は、誤ったことを信じる人がいることが理解できない。自分が知っている事実と違うことを他人が信じている理屈がわからないのだ。

知っているせいで間違ってしまう

A・B2つの被験者グループをつくっり、次ような実験をした。（1個のｳﾞｧｲｵﾘﾝと4個のｹｰｽがある）

黄色　緑色　青色　赤色

ｳﾞｨｯｷｰはｳﾞｧｲｵﾘﾝの練習後にｳﾞｧｲｵﾘﾝを青色のｹｰｽに仕舞って、部屋をでた。
その後から、ﾃﾞﾆｰｽがやってきて、ｳﾞｧｲｵﾘﾝを別のｹｰｽに仕舞って、部屋をでた。
Aｸﾞﾙｰﾌﾟの被験者には、ﾃﾞﾆｰｽはｳﾞｧｲｵﾘﾝを赤色のｹｰｽに仕舞ったと伝える。
Bｸﾞﾙｰﾌﾟの被験者には、ﾃﾞﾆｰｽがｳﾞｧｲｵﾘﾝを仕舞ったｹｰｽの色は伝えなかった。
A・B両方のｸﾞﾙｰﾌﾟに、ﾃﾞﾆｰｽは青色のｹｰｽと赤色のｹｰｽの位置を取り替えたと伝えた。

黄色　緑色　赤色　青色

ｳﾞｨｯｷｰが部屋に戻ってきて、ｳﾞｧｲｵﾘﾝを取り出すのにどの色のｹｰｽを開けると思うかを尋ねた。
ｳﾞｨｯｷｰはｳﾞｧｲｵﾘﾝが入れ替えられたことを知らないので、青色のｹｰｽを開ける。（これが正解）

＊ｳﾞｨｯｷｰが色で覚えいたことが大前提。位置で覚えていたらこの実験は失敗。

Bｸﾞﾙｰﾌﾟ被験者は赤色のｹｰｽにｳﾞｧｲｵﾘﾝが入っていることを知っているので、つい赤色のｹｰｽと間違った答えを出す割合が、入れ替えを知らないAｸﾞﾙｰﾌﾟよりも高かった。

全然当たらない「曲名クイズ」

ﾎﾞｰﾄﾞｹﾞｰﾑのﾋﾟｸｼｮﾅﾘｰ（言葉で題が出され、それを絵にして、他のﾒﾝﾊﾞｰが題を当てる）ではなかなか当たらない。絵の代わりに、手拍子で曲を当てるｸｲｽﾞでもなかなか当たらない。

「相手にとってもわかりやすい」と思ってしまう

絵の場合も、手拍子の場合も、ﾒｯｾｰｼﾞを送る側は相手にわかるだろうと過信する。
知識が豊富で賢い人が必ずしも優秀な教師や指導者になるとは限らない。
ﾉｰﾍﾞﾙ賞受賞者の講演が学生にはさっぱりわからないことや、ｳﾞｧｲｵﾘﾝの名手がｳﾞｧｲｵﾘﾝを上手に教えられるとは限らない。

人は全然「相手の視点」から考えない

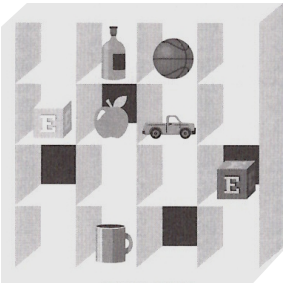
相手の視点から考えることを怠ったばかりにｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝに失敗する例は多くある。
相手の知識や考え、見え方、好みを「わかっている」状況でも不合理な失敗をすることがある。

友達を作りたいと何かの会合に出かけるとき、あなたは高級ﾌﾞﾗﾝﾄﾞの時計と大量生産の安物の時計の両方を持っていた場合にどちらの時計を付けて出かけますか。

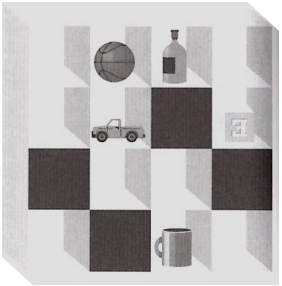
あなたは、初めての会合で高級ﾌﾞﾗﾝﾄﾞの時計を付けた人と、安物の時計を付けた人に出会ったら、どちらの人と友達になりたいですか。

「一瞬立ち止まって自分と反対の立場の視点を考慮さえすれば、選ぶべき時計はどちらかすぐにわかるはずだ。たとえ相手の関心を引きたいときでも、いや関心を引きたければなおのこと、相手の視点から考えることを忘れてはいけない。

どうしても「自分の視点」にこだわってしまう



被験者側の視点



指示者側の視点

上記のようの4X4の升目の箱があり、4ケ所に背面壁があり、7個の品物が入れてある。
被験者側からは升目の中が全部見えるが、指示者側からは4ケ所中が見えない。
Eと書かれたﾌﾞﾛｯｸは被験者側からは2個見えるが、支持者側からは1個しか見えない。
被験者と支持者は入れ替わって指示を出す。

指示を出す側は自分の持っている情報からしか指示を出せない。

どちら側から見ても1つしかない瓶の移動は指示は直ぐに被験者は行える。
Eと書かれたﾌﾞﾛｯｸはの移動指示は被験者側からは2個見えるので支持者にどちらか尋ねる。
支持者は自分の側から見えるものからしか指示を出せないので、指示者が見ているEと書かれたﾌﾞﾛｯｸを意図して指示している。被験者には指示者側から見えない方のEﾌﾞﾛｯｸを動かす人もいた。
指示された側は自分の立場で戸惑う。

「英語」と「広東語」では結果が違った

同じ実験を中国人に広東語で行ったところ、彼らは戸惑うことなく、支持者側の意図に合わせて行動した。中国、韓国の人は年長者や場の雰囲気を読んで行動するが、非アジアの人は個人を主張するように物事の選択をする。特に顕著なのは食事のメニューの選択だ。アジア人は相手に合わせようとする。それは集団主義と個人主義の違いによるものと思われる。

社会の規範への同調という形での社会性の獲得は、幼少期から始まる。集団主義的社会で生まれ育った人はそうやって他者の考えていることを読む訓練を絶えず積んでいるため、他者への視点で考えることに長けていて、ほぼ反射的にそれを行うのだ。

ｲﾝﾄﾞ（古代仏典）、中国（四書五経）はﾎﾟｼﾞﾃｨﾌﾞ、ﾈｶﾞﾃｨﾌﾞ両面で重要な機能を今も持っていると思われます。

最低限のレベルで「他人の考え」を理解できるようになる

ではどうすれば、他人の考えや意図、信じていることや感じていることを適切に理解できるようになるのか？　他人がどう思うかにあまり敏感になりすぎても、それも問題である。個人主義の社会に暮らす人にして見れば、集団主義の社会のﾚｽﾄﾗﾝで、周りと同じ料理を注文するよう無言の圧力がかかることに、異様とまでも思わなくても違和感を覚えるだろう。　公衆衛生上の緊急事態とはいえ、自分の居場所が常に他者に知られているというのも、ｼﾞｮｰｼﾞ･ｵｰｳｪﾙの「1984年」のﾃﾞｨｽﾄﾋﾟｱのようだ。

SF小説「1984年」は絶対的な独裁者・ﾋﾞｯｸﾞ･ﾌﾞﾗｻﾞｰに国民が常に監視、管理されて、言語までもが統制されている社会を描いたSFの古典的小説。

はっきりいって、他者が考えていることの解明には、夢中になりすぎるべきではない。
しかし、最低限の基本的なﾚﾍﾞﾙで他者の考えていることを理解できるようになる必要は絶対にある。

ｺﾐｭﾆﾃｨｰ・社会・共同体の必要条件

子供が嘘をつけない理由

2、3歳の子供には「自分の知っている事実とは異なることを、他者が事実だと誤信する場合がある」ということを理解できない。 ある研究を通じて、その年齢群の子供にその事を理解させようと思えば、2週間もかけずにできることが示された。

興味深いことに、その検証は子供たちに嘘のつき方を覚えさせるなかで行われた。

情報の非対称性

嘘をつくには、「自分は正解を知っていても、他の人はそれを知らない可能性がある」と理解していることが前提となる。 2、3歳のこどもはそれを理解していないから嘘を付けないのだ。 次のようなｹﾞｰﾑをすることで、子供たちは嘘をつくことを学習していく。

①子供に見せないで、観察者が2つのｶｯﾌﾟを伏せて、その中の1つにｷｬﾝﾃﾞｨｰを1個入れる。

②子供にどちらのｶｯﾌﾟにｷｬﾝﾃﾞｨｰが入っているか当てさせる。当たればｷｬﾝﾃﾞｨｰをもらえる。
③観察者と子供が入れ替わって、観察者に見えないようにして子供がｷｬﾝﾃﾞｨｰを隠す。
この時、観察者が間違えれば、子供の方がｷｬﾝﾃﾞｨｰをもらえることを伝える。
④観察者は子供に、どちらに入っているかを尋ねる。すると、子供は正直に入っている方を示して、観察者がｷｬﾝﾃﾞｨｰをもらえて、子供はもらえない。子供はどちらに隠したかを観察者がすべて知っているものと思っている。

次に、同じ子供たちは別のゲームで11日間もﾄﾚｰﾆﾝｸﾞをした。ｶｯﾌﾟの代りにﾍﾟﾝｹｰｽを使って、中身を鉛筆でなく別の物を入れて、中身を当てさせた。子供たちは思い込みから間違うことを学習した。別のﾄﾚｰﾆﾝｸﾞでは心の状態を表す言葉（好き、欲しい、感じる）が頻繁に出てくる物語を聞かせて、自分でもそのような言葉を使って物語を作るように指示した。 その結果、ｶｯﾌﾟｹﾞｰﾑを再開すると、ほぼ毎回観察者を欺くようになった。

「他人の立場」になって考えてみる

子供に嘘のつき方を教えるのはいいことではないが、子供にとっては「他人の心の状態を理解するとはどういうことか」を教わったに過ぎない。研究報告の中でも示されているように、嘘のつき方をある程度知っておくことは、重要な社交ｽｷﾙの一つとなる。

「嘘も方便」
「物は言いよう」は
日本では常識でないか。

「認知的な心の理論」と「感情的な心の理論」を区別して考えることは、精神病質者を理解する上で非常に重要だ。嘘をつくにも不正を行うにも、他者の心の理解が必要となるので、「認知的な心の理論」に関していえば、ｻｲｺﾊﾟｽの能力は、ｻｲｺﾊﾟｽでない人と遜色がない。しかし、彼らには「感情的な心の理論」は欠けている。彼らは無神経かつ冷淡で、慈悲の心がないのは、他人の感情を気にとめないからだ。

感受性は他者、物に対する感情移入があってこそ成り立つ。

2016年の時点で、ｼﾘｱ難民の数は550万人にのぼった。「ｵﾊﾞﾏ大統領に手紙を書いてｼﾘｱ難民をｱﾒﾘｶで受け入れるように懇願する意志はあるか」と質問をする実験が行われた。「ｲｴｽ」と答えたは民主党支持者の中の23%だった。「もしもあなたが、戦争によってﾊﾞﾗﾊﾞﾗにされた国での迫害から逃れてきた難民だったら、と想像してみてください。ごくわずかしか携帯できない状況にあって、あなたなら何を持って国を出ますか？そして、どこへ逃げますか？あるいは、母国にとどまり続けますか？ 何を一番の試練に感じると思いますか？」という手紙を質問の前に読んだ人は読まなかった人より「ｲｴｽ」が50%多かった。

「もっと理解してくれてもいいのに・・・」は叶わない

他者の心を理解する力は、認知、感情の両方のﾚﾍﾞﾙで改善できる。ここでいう「理解」とは、非常に基本的な理解のことだ。小学生でも自分と他人では意見が違うことがあると知っている。しかし、他者が考えていることや感じていることを理解する能力は、他者の視点から考えるだけでは必ずしも改善されない、ということを実証した実験がある。社会科学において、効果ｾﾞﾛの実証は困難を極めることで知られる。

「神はいない（ないこと）」ことを証明することは「神はいる（ある）」ことを証明することより難しい。
（あることは1つであればもいいが、無いことは無限大になる）

「わかるようになった」と思った人もなっていなかった

他人の視点で改善されないことを実証した実験は24もある。たとえば、「誤信念課題」として知られている課題を使って、たとえ正解を知っていても「間違っていることを正しいと誤信している人」の立場に自分を重ねられるかどうかを確かめた。別の実験は「目から心を読むﾃｽﾄ」だった。これらの実験は2つのｸﾞﾙｰﾌﾟに分けて行われた。一つのｸﾞﾙｰﾌﾟにはどんな方法を使ってもよいとされていた。別のｸﾞﾙｰﾌﾟには「他者の視点ｸﾞﾙｰﾌﾟ」で、このｸﾞﾙｰﾌﾟには他者の視点から考えるように強調して指示されていた。
後者のｸﾞﾙｰﾌﾟは「実験後は自分の視点にとらわれることが少なくなり、他者の視点で考えるようになったおかげで正確さが増したと思う」と報告した。しかし、実際には、どの課題、実験においても正確さの向上は見受けられなかった。

実験の1つは検索できます
eq tests online free

私たち夫婦は25年間、「互いを誤解」していた

私たち夫婦は結婚して25年、子供が2人いて、彼らが大学を卒業して家をでるまで、私は子供と夫に合わせて常に2ﾊﾟﾀｰﾝの食事を作っていた。子供たちが家を出ていなくなったので食事は1つのﾊﾟﾀｰﾝでよくなったねと夫はいった。夫は25年間、私と食事の好みが同じだと思いこんでいたことは判明した。

「小説」を読むと人の気持ちがわかるようになる？

24の実験は他者の視点で考えたり、他者を思いやったりするだけでは、必ずしも正確に

認識できるようにはならないということを示していた。 俳優や小説家が、他者の視点から考える力がずば抜けて優れていることを思うと、その力を高めるｽｷﾙを教わり、練習して身に付けたに違いない。

「ｻｲｴﾝｽ」誌に文芸小説を読むと他者の考えや感情の理解が向上するかどうかを調べた研究が掲載されていた。この研究では目覚ましい改善が見られたとされたが、その実験は再現性がないとされた。しかし、小説を読むこと自体に効果はあるが、何年にもわたって膨大な数を読まなければ効果は現れない、というのが本当のところでないかと思う。

いちばん確実なのは「直接、聞く」こと

他者を思いやれる寛容な人ほど、相手の思いを推し量りたい誘惑に抗うのは難しいかもしれない。だが、他者が何を知り、何を信じ、何を感じ、何を考えているかを確実に知りたいなら、相手に尋ねればいい。「ただ尋ねる」ことが先に紹介した研究の25番目の実験だった。

この実験の被験者はﾍﾟｱを組み、ﾍﾟｱの相手に関する質問表を渡された。被験者は2つのｸﾞﾙｰﾌﾟに分けられ、1つ目のｸﾞﾙｰﾌﾟには相手の視点から考えて質問に回答するように指示し、残り半数のｸﾞﾙｰﾌﾟには、回答する前に、相手にあれこれ尋ねる時間を5分与えた。 当然ながら、後者のｸﾞﾙｰﾌﾟの正解率は高かった。
事実を集めない限り、事実を正しく把握することはできない。

第 8章 わかっているのに「我慢」できない

私が心理学の博士号を取得したのは25歳のときで、この分野では一般的に数年早かった。それは私が天才だったからではない。私は5､6年かけて博士号を取得する予定だった。4年目に指導教授が別の大学に移ることになり、教授はその年の内に論文を書き上げれば博士研究員として私を連れていくといってくれたからだった。そして、私は論文を書き上げ博士号を取得した。私は何事も先延ばせない性格だった。

「いまの50ドル」と「明日の50ドル」では価値が違う？

今340ﾄﾞﾙもらうのと、6ｹ月後にもらうのと、どちらを選ぶかと問えば、全員が「今」を選ぶ。
では、今340ﾄﾞﾙをもらうか、6ｹ月後に10ﾄﾞﾙ多くした350ﾄﾞﾙもらうのとどちらを選ぶかとやはり、大多数は「今」の340ﾄﾞﾙを選ぶ。行動経済学ではこの選択を経済合理性がないという。

同じことでも「先の話」となると考え方が変わる

では、さらに条件を変えるとどうなるか。今の20ﾄﾞﾙと1ｹ月後の30ﾄﾞﾙでは「今」の方を選ぶ人が、12ｹ月後の20ﾄﾞﾙと13ｹ月後の30ﾄﾞﾙのどちらを選ぶかと問われるとほとんどの人は1ｹ月余分に待って10ﾄﾞﾙ多い方を選ぶ。

被験者の年齢、余命によって認識は変わる。金額、時間差にもよる。

現在における1ｹ月の違いは、未来における1ｹ月の違いよりもはるかに大きなものに感じるのだ。私が早く博士号を取得しようとしたのは、私の時間認識、未来認識による。

「30分後」のピザすら待てない

そうはいっても、合理的とはいえないほど未来の報酬の有用性を割り引く傾向が強いことは否めない。行動経済学のさまざまな研究を通して、人は「十分には満足を遅らせることはできない（我慢できない）」らしいことが示されている。行動経済学では遅れて得られる報酬の価値が割引かれることを「遅延割引」という。気候変動の問題は「今を我慢できるか」「未来に投資できるか」を問われていることだ。小さな身の回りでも、30分後の宅配ﾋﾟｻﾞを待てずに、目の前のﾎﾟﾃﾄﾁｯﾌﾟを食べてしまう。

年金支給年齢の延長
生命保険の満期は
この理論を使う。
近年、平均寿命の延長がこの計算を修正させている。

「嫌なこと」も未来にやるほうがラクだと思ってしまう

遅延割引は、未来の報酬だけでなく未来の痛みに対しても適用される。人が物事を先延ばしにするのも納得がいく。未来にやっても、今やっても全く同じなのに、未来に行う方がうまく対処できそうに感じる。学生が課題を先送りする時に、それなりに根拠をあげる。
「ﾀﾞｲﾔﾓﾝﾄﾞは圧力をかけないと生まれない」
「締め切りが迫るとｱﾄﾞﾚﾅﾘﾝが生じ、ﾓﾁﾍﾞｰｼｮﾝがあがる」
「細部や完璧主義に捉われて行き詰ることがなくなる」・・・・・

必死に我慢しても「衝動」に抗えない

人が満足を遅らせられない（我慢できない）理由のひとつに「衝動を抑えられない」ことが挙げられる。いまや有名になったﾏｼｭﾏﾛﾃｽﾄは満足遅延耐性（我慢する力）と衝動の制御に関する最初期の研究の一つで、1970年代に子供を対象に実施された。

「待てば海路の日和あり」
「人のいく裏に道あり花の山」
「思い立ったが吉日」
防災対策を遅延しても

> 「すぐにﾏｼｭﾏﾛを食べてもいいが、調査員が戻ってくるまで食べずに待てば、ﾏｼｭﾏﾛをもう一つあげる」と説明する。持てない子には2個目はもらえない。

利益はあるか？
早期効果/遅延効果

待っていた子供の時間にはﾊﾞﾗﾂｷがあった。この実験が有名になったのは10年後に、驚くべき事実が判明した。2個目のﾏｼｭﾏﾛのために長く待てた子供のほうが高校の終わりに受けた試験の成績はよかった。（その後の調査では社会へ出てからの年収も多かった。）

「注意をそらす」と鳩も待てるようになる

「待つ者にはよいことが訪れる」と言われるが、それが本当なら、子供を目先の満足の誘惑に抗えるようにするにはどうしたらいいのか。その簡単な方法は子供が待つ間に、ﾏｼｭﾏﾛを子供の視界から離すことだ。自然界でも同じことが起きる。鳩は注意を

協会からの早期退会
早期退職、早期引退は
「遅延効果」の放棄か。

そらされると、遅れて得られる満足を選びやすくなるという。

「不確かなこと」があると、頭がうまく働かなくなる

人が未来に生じる報酬や痛みに関して不合理な判断を下すことがあるのは、「不確かなことについてじっくりと考えるのが苦手」なせいでもある。

次に、不確かさの感覚がいかに判断力を混乱させるかを実験した。

被験者のAｸﾞﾙｰﾌﾟの学生には「難しい試験を受けて合格したと知った瞬間」を想像するように指示した。その後、1日限定でとても魅力的なﾊﾜｲ旅行のﾊﾟｯｹｰｼﾞﾂｱｰが破格の安値で売りだされたと仮定して被験者に選択肢が示された。

①そのﾊﾟｯｹｰｼﾞﾂｱｰを買う
②そのﾊﾟｯｹｰｼﾞﾂｱｰを買わない
③返金不可の5ﾄﾞﾙを払って破格安値の販売期間を延長する

Aｸﾞﾙｰﾌﾟの大多数は①を選んだ。

被験者Bｸﾞﾙｰﾌﾟの学生には「試験に落ちて2ヶ月後に再試験を受けることになった瞬間」を想像するように支持されたのち、同じ問題を出して選択させた。
Bｸﾞﾙｰﾌﾟの大多数も①を選んだ。

3つ目のCｸﾞﾙｰﾌﾟには「試験を受けて結果待ちをしている状態を想像させ、同じように選択をさせた。このｸﾞﾙｰﾌﾟの大多数は③を選んだ。

人は自分にとって重要な成果の内容が不確かな状態にあると、意思決定の能力がうまく機能しなくなるのだ。面接後の採用通知や仕事の契約が成立したかどうかの連絡を待っているときは、いつもなら楽しめるようなことができなくなる。

2020年の大統領選挙の時が私の研究活動にとって不確実な状態と感じて、仕事が進まなかった。そこで、私は選択肢を考えた。①ﾄﾗﾝﾌﾟが勝ったら、②ﾊﾞｲﾃﾞﾝが勝ったらどちらになっても、私の研究は続けなくてはならないと判断してスッキリとして研究を続けられた。

人は「確実性の高い」ことを極端に好む

そうやって不確かさを嫌悪するのは正常なことだが、遅れて得られる満足に関していえば、「確かな成果と不確かな成果のどちらかを選ぶ必要のある時」は、人は不合理な判断をする恐れがある。未来のことは予測できないことが多い。予測できてもその確率までは正確には出ない。しかし、未来に確実に起こることもがある。行政年度が変わる、高齢化が進む、生産人口が減少することは確実なこと。その結果、何が起きるか、何がどうなるかは不確実なこと。確実なことでおきることを「確実性効果」と呼ばれる。

行動経済学はここから出発している。

賭けA：100％の確率で100万ﾄﾞﾙもらえる。
賭けB：89％の確率で100万ﾄﾞﾙもらえ、10％の確率で500万ﾄﾞﾙもらえ、1％でなにももらえない。

もらえる、もらえないの確率だけのﾘｽｸ以外に想定される別のﾘｽｸはここでは考慮の対象にはなっていないことがこの実験の問題点。

この選択肢ではほとんどの人が「賭けA」を選ぶ。それはAの方が確実であるから。

あなたの選択には「一貫性」がない

人は次の選択の問題をすると、その選択の根拠には一貫性がないことがわかる。

賭けX：11％の確率で100万ﾄﾞﾙ当たり、89％の確率で何も当たらない。
賭けY：10％の確率で500万ﾄﾞﾙ当たり、90％の確率で何も当たらない。

この選択肢ではほとんどの人が「賭けY」を選ぶ。ここでは確実性よりも、高い報酬を選ぶ。

「0％」と「1％」を大違いに感じる

賭けA・Bの選択肢を選択した時の判断基準は「確実性」であったのに、選択肢X・Yでは「確実性」ではなく「高い報酬」を選択した。選択に一貫性がなかった。なぜこのような現象がおきるというと、0%と1％、10%と11%とでは感じ方が全く違うからだ。「数学的」には完全に一致する1%の違いでも「心理的」には全く違う扱いになる。

数字だけで考えると、まさに机上の空論になる。工学、化学の実験ではこうような条件設定は通用しない。純度を高める、温度を上げる、圧力を高める場合の難易

行動経済学の専門家は賭けの事例を使って選択する状況について論じがちだが、そうすると選択の結果がもたらす事象が身近な現実から少し遠ざかる。

自分に「力がある」と感じた状況を想像する

独創性、創造性が困難な理由の一つ。

人は満足遅延耐性を試す選択に迫られるたびに、確実な（今すぐできる）ものを不確実な（すぐにはできない）ものより優先する傾向に影響を受けてしまう。この習性はそう簡単には克服できない。ﾘｽｸを回避したがる人がほとんどで、ﾘｽｸを取れなかったり、未来の大きな報酬を待てなかったりするのは不確実性への不安や恐れのせいだというなら、「未来を信じる力を高める」ことが一つの解決策になるのでないか。

それらの方法を具体的に教えてくれる実験をした。

被験者をA・B2つのｸﾞﾙｰﾌﾟに分けて、Aｸﾞﾙｰﾌﾟには「自分は無力だ」と感じたときのことを書き出すように指示した。Bｸﾞﾙｰﾌﾟには「自分には力がある」と感じたときのことを書き出すように指示した。結果はBｸﾞﾙｰﾌﾟはAｸﾞﾙｰﾌﾟより「待ってでもよりよい報酬を得たい気持ちが強くなる傾向が見られた。未来を信じる気持ちを取り戻したいときは、自分の力が自分や他人の人生に影響を及ぼしたときのことを思い出そう。

未来は「距離が遠い」から軽視する

未来に起こることの価値が割り引かれる理由は他にもある。未来に起こるというだけで距離を感じるのだ。あなたが暮らす区画で火事があれば、自分の家まで燃え広がる危険が

なくても、ｼｮｯｸを受ける。しかし、別の町で火事があっても、報道されたﾆｭｰｽを見ようとも
しないかもしれない。高校の同級生がｱｶﾃﾞﾐｰ賞を受賞すれば、誇りに思うだろう。しかし、
別の国の誰かが受賞しても、好きな俳優でもなければ気にも留めることはない。

自分が講演会を計画する側のとき、講師を確保するのが大変なので、必ず数ｹ月前には
招待するようにしている。日程が遠い先にあるほうが、引く受けてもらいやすいからだ。

先のことを「できる限り具体的」に想像する

時間、空間の距離感ではなく、心理的な距離感はどうしたら短くできるだろうか。
効果が実証されているいるのは、未来に起こる出来事について可能な限り具体的に
思い浮かべて、未来をより現実的なものにして実感するという方法だ。
ある研究では、将来にむけて金銭的な備えを若者に促すために被験者の若者に似せた
ｱﾊﾞﾀｰを没入型のVR(仮想空間)の中で使った。別の被験者の若者に似せたｱﾊﾞﾀｰは
定年を迎えた年齢に見えるようにした。

後者の歳をとったｱﾊﾞﾀｰをVRでみた被験者の方が金銭的備えをそうでないｸﾞﾙｰﾌﾟの
2倍していた。 この手法は禁煙、禁酒、ﾀﾞｲｴｯﾄを促す方法として重要になっている。

やるべきことを「追求」しすぎてしまう

目先の報酬を拒んで未来の報酬を優先することが絶対的に正しいといっているように
聞こえるかもしれない。とはいえ、自己管理ばかりがやたらと強調されると、それが
裏目に出ることはないかと、心配になる。何があっても自分を貫き通して成功した人の
逸話はいつの時代にも刺激的だ。しかし、そういういうｹｰｽだけを考慮することは、まさに
第2章で取り上げた「確証ﾊﾞｲｱｽ」の典型だ。

私たちはそろそろ、「やればできる」の精神をことさらに賞賛する文化について考え直す
べきではないだろうか。それは「思春期や青年期の若者の間で不安がまん延している」
という事実があるからだ。優秀な学生の多くがFOMO・ Fear of Missing Out・取り残される
ことへの不安を感じているのだ。「終わりのない成果競争で生き残るために欠かせない
何かを、自分はやり損ねているのではないか」と不安になっているのだ。

自動的に「目の前の山」を登り続けてしまう

私は博士号を取得して、初めてﾊﾟﾘを旅行して、大きなｶﾙﾁｬｰﾁｮｯｸを受けた。平日に2時間の
昼休憩を取り、楽しくﾜｲﾝを飲んでいる人があまりにも多いことだった。美術館を巡り、そこから
2世紀前の人たちを生活を思い描いた。では今の時代の私たちにとって、当たり前でも、
未来の人たちから見たら、間違っているし、滑稽だと思えることには何があるのだろうと思った。
「働くために生きている」というような私たちの姿勢は、きっと未来の世代では笑いものになるので
ないかと思い至った。ほとんどの人が安定した場所に必死でしがみつき続けるか、次から次へと
山を登り続けるかのどちらかの一生を送っている。

自己管理レベルが高いほど早く老化する？

ﾃﾞﾝﾏｰｸ、ﾉﾙｳｪｰ、ﾌｨﾝﾗﾝﾄﾞといった北欧諸国は、幸福度では世界のﾄｯﾌﾟｸﾗｽに付けている。
行き過ぎた自己管理は精神衛生上や幸福の妨げとなるばかりか、肉体的にも悪い影響を
及ぼす。意外な報告があった。「思春期中期での自己管理ﾚﾍﾞﾙが高い子ほど、青年期に
なったときに免疫細胞に老化の兆しが多く表れたのだ。不利な環境にあっても自制心の
高い子は学校や社会でうまくいき始めると、その状態を維持したい、もっと向上したいと願う。
何年にもわたって終わりのない闘いを延々と繰り広げるようなものだ。彼らのｽﾄﾚｽﾎﾙﾓﾝ系
は絶えず活動状態にあり、それが身体が壊れるまで続く。

完璧主義だと「難しこと」ができなくなる

良く過ぎた自己管理によって悪影響が生じるのは、不利な環境にいる子供に限った話では
ない。自己管理力に対する強い欲求は、単純なﾀｽｸ(作業)にはそれなりのﾒﾘｯﾄが見られたが
困難なﾀｽｸではその逆が起きた。困難なﾀｽｸには極端にﾊｲﾚﾍﾞﾙな自己管理力が求められる
からだ。自分の理想(完璧さ)と実際の能力に開きがあると気づくと、目指すものになれない
とわかれば、人はがっかりし、手を抜き、持てる力も発揮できなくなる。

結果だけを見るな、過程を楽しめ

このような事象について知ると、若者の間で不安が広まっていることに少しは納得がいく
のではないだろうか。いつまで追求を続け、いつやめるかを判断するのは簡単ではない。
それを見極めるべく、私は日々、「結果に飛びつかず、過程を楽しめ」と自分に言い聞かせて
いる。

最後に

私はよりよい世界というのは「よりフェアな世界」だと思っている。まずは誰もが自分自身に対してフェア
になること。自分を卑下するべきではない。また、自分を過信するのもフェアではない。それから他者に
対しても、もっとフェアになれるはずだ。思考のすべてを完璧に思い通りにすることはできないし、する
必要もない。

以上

著者は韓国出身の認知心理学者。著者が英語圏文化の中での活動であることから、
英語圏で理解されることを前提にしていると察せられます。

現在も日本以上に韓国文化は儒教の影響を強く受けて、倫理観、道徳観もそうしたものか
と思いながら読みましたが、一向にその気配はありませんでした。それは著者のいうバイアス
なのかと思います。著者はあえてそれを出さないようにしているように見えます。

経済学は心理学の視点を取り入れることで行動経済学が生まれました。
著者は行動経済学の実績から認知心理学の研究対象を思考の間違い、思い違いに
当てた成果をまとめたのが本書「思考の穴」かと思います。

行動経済学の成果を見て行くうちに気づいたのは、行動経済学は欧米の経済学者が
生み出したもので、その学説は学者でない庶民の知恵として、ことわざ、たとえ話、
民話の形で伝承されていると思いました。どこの国にもそのようなものがあります。
ただ、それらを調べ、研究しているのは民俗学者かと思います。

少ないと思います。古代仏教、四書五経は中国、韓国、日本の知識人には
教養として伝承されてきました。欧米の知識人にとっては東洋の古典は神秘的、妖術的
な物に思われているように思います。その理由の一つが文字体系にあるように思います。
もう一つは、欧米人に限らず、どの人にも基本的に共通して持っている他人、他国、
他言語、他宗教、他文化に対する蔑視、覇権が根底にあるように思います。

数学の集合論の論理性、化学、物理学では実験計画法による論理性は自然科学では
常識です。それでも、学説の９９．９％は仮説で、いつ覆るかわからないという謙虚な
思考が科学者の基本姿勢と言われます。
（2020年11月・竹内薫　著「９９．９％は思い込み」を紹介しました。）
https://ja.wikipedia.org/wiki/実験計画法

人文科学分野での実験は自然科学の実験とは意味が違うように思います。
思考、バイアスは人文科学分野の対象でもあり、言語が基礎になっています。
言語の意味は個人、集団、地域、時代のTPOによって常に変化しています。
このことを認識することで「思考の穴」に陥るこを少しでも避けられると思います。

前回と同じこと繰り返し書いてしまいました。

（T.K.）